



山添村 西豊地区まちづくり基本計画

～みんなで取り組む～

ツツジと笑顔が咲きほこる
まちづくり

令和5年10月



1. まちづくり基本計画について
2. 計画のコンセプト及び基本方針
3. 事業計画
4. 基本計画図及び相関図
5. 成果指標





西豊地区
まちづくり
基本計画

1.まちづくり基本計画について

まちづくり基本計画策定の背景と目的

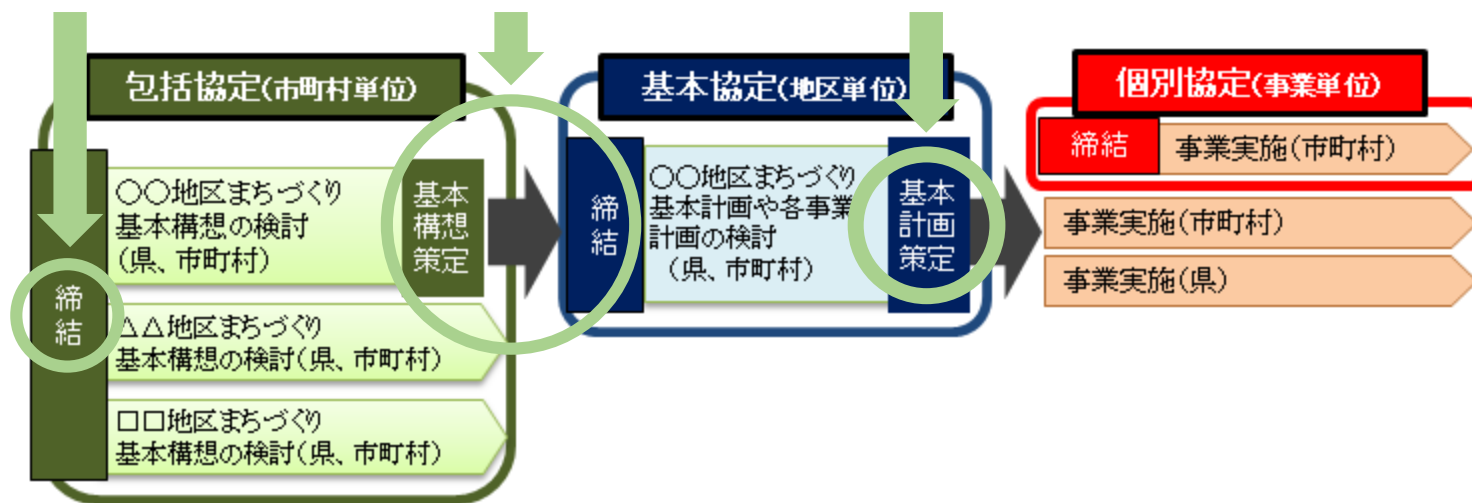
山添村(以下「本村」という。)は、平成30年4月、西豊地区を対象地区として奈良県とまちづくりに関する包括協定を締結し、令和4年2月には、その包括協定に沿った「西豊地区まちづくり基本構想」を策定し、まちづくりに関する基本協定を締結しました。

今回策定した「西豊地区まちづくり基本計画」(以下「本計画」という。)は、上記「西豊地区まちづくり基本構想」の実現に向けて取り組む事業について、その内容やスケジュール等を明確にし、複数事業の事業間調整を図るとともに、幅広い関係者が相互に連携しながら、効率的かつ計画的に事業を展開できるようにすることを目的としています。

平成30年4月

令和4年2月

令和5年10月(本計画)



本計画の位置づけ

本計画は、本村が令和2年4月に策定した村の最上位計画「やまぞえ未来創生計画」の下位計画として、「産業・雇用」「観光・交流」「協働・連携」等の関連分野における施策及び山添村公共施設等総合管理計画等のその他関連諸計画との整合・連携を図り、奈良県との協定に基づき、住民との連携・協働により、「みんなが住み続けたい村」の実現をめざします。

「やまぞえ未来創生計画」でめざす村の姿



2.計画のコンセプト及び基本方針

本計画のコンセプトと基本方針

本計画のコンセプトと基本方針は、「西豊地区まちづくり基本構想」において地区の課題整理に基づき定めた下記の通りとします。

【コンセプト】

～みんなで取り組む～

ツツジ と **笑顔** が咲きほこるまちづくり



豊かな**資源**

それぞれが
象徴するもの

豊かな**暮らし**



【3つの基本方針】

[1] 豊かな**資源**を活用する

[2] 豊かな**暮らし**を守り育む

[3] **資源**を活かし**暮らし**を育む
環境整備

基本方針に基づく課題解決へのアプローチ

[1] 豊かな**資源**を活用する

[2] 豊かな**暮らし**を守り育む

人が集う
地域をつくる

地域に働く
場を増やす

暮らしやすい
地域をつくる

[3] **資源**を活かし**暮らし**を育む
環境整備

[1]豊かな資源を活用する

(1) ツツジを活かす

- 現存のツツジの手入れと新たな植栽
- 散策路(歩道)の整備 等

(2) ヒツジを活かす

- めえめえ牧場の活性化
- 羊肉活用事業の推進
- 羊の草刈り隊派遣事業の推進 等

(3) 資源を活用した交流や産業の活性化

- ツツジ、羊、星空や農を活用した交流の拡大
- ツツジ、羊、星空や農を活用した特産品づくり 等

[2]豊かな暮らしを守り育む

(1)誰もが暮らしやすい生活環境づくり

- 企業等との連携・協働による移動や買い物等の支援
- 地域で課題を解決する仕組みづくり 等

(2)U/J/Iターンの受け入れ環境づくり

- 役場(窓口)と地域の連携
- 補助・支援の仕組みづくり 等

(3)時代に合った地域コミュニティの構築

- 地域コミュニティの拠点としての旧西豊小学校の活用
- 地域のルールの明文化 等

[3]資源を活かし暮らしを育む環境整備

(1)旧西豊小学校の整備

- 地域コミュニティや暮らしの拠点としての整備 等

(2)フォレストパーク神野山の整備

- 乗り合いカートが走行可能な神野山周回ルートの整備
- 神野山周辺における宿泊施設の整備 等

(3)交流と暮らしを支えるインフラ整備

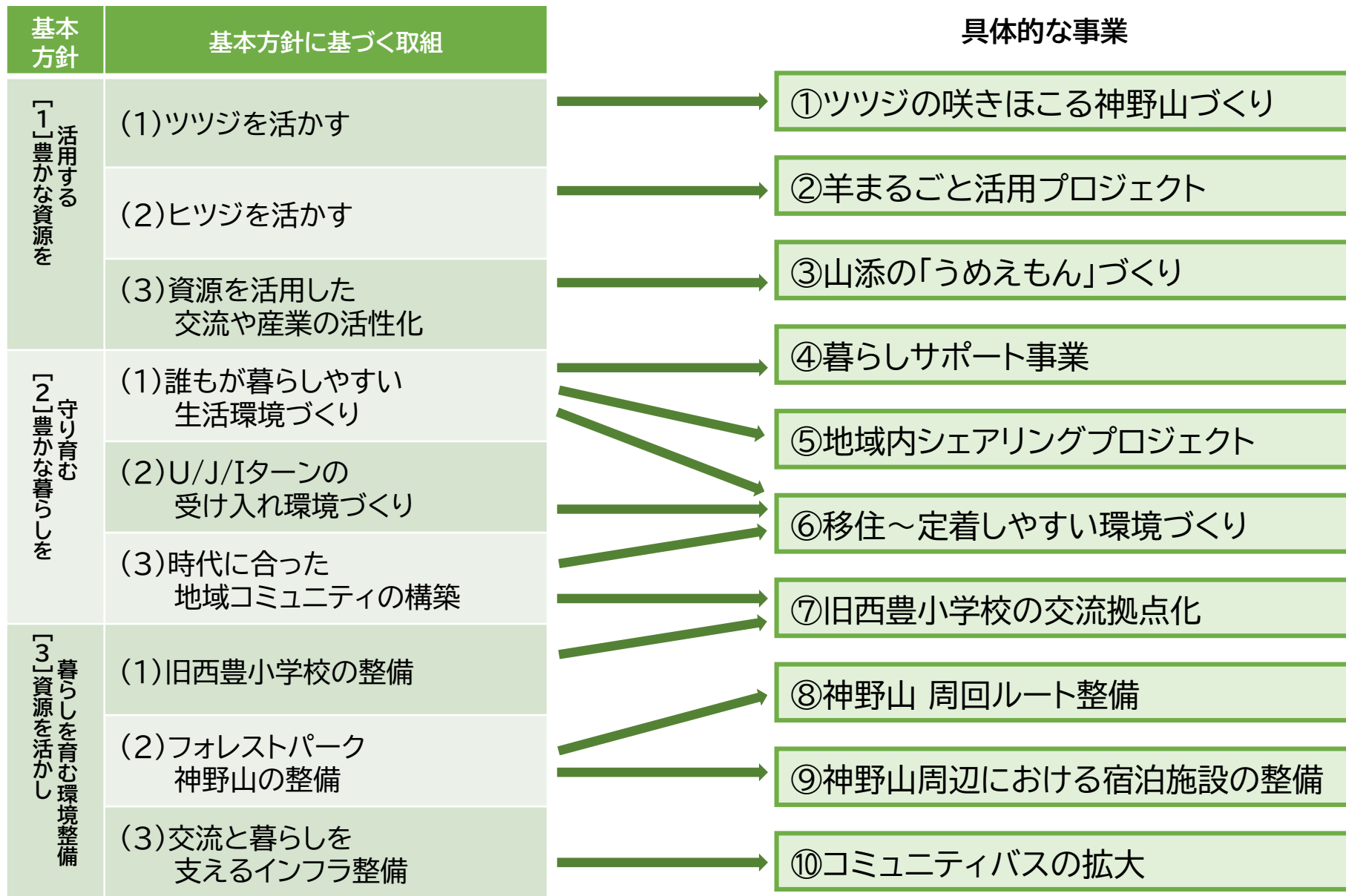
- 名阪国道・神野口IC及び県道奈良名張線から西豊地区へのアクセス向上
- 二次交通の確保 等

A graphic consisting of two green circles of different sizes. The larger circle is on the right and contains the title text. The smaller circle is positioned to the left and slightly below the larger one.

西豊地区
まちづくり
基本計画

3.事業計画

基本方針に基づく取組と事業



事業の概要（1）

	事業名	事業概要
①	ツツジの咲きほこる神野山づくり	地区のシンボル「神野山」を県を代表するツツジの名所として整備し、交流の拡大と、その景観を持続的に維持する仕組みづくりを進める。
②	羊まるごと活用プロジェクト	交流拡大と新たな産業・雇用の創出及び地域のブランディングを目的に、「羊のいいとこ、全部伝えたい」をコンセプトとして「めえめえ牧場の活性化」「羊の草刈り隊派遣事業」「羊肉活用事業」の3つの事業を推進する。
③	山添の「うめえもん」づくり	特色ある農・畜産物を活用した食の特産品づくりを支援する取組を実施し、6次産業化を視野に入れた産業振興を図る。
④	暮らしサポート事業	移動販売車を保有する企業やその他の民間事業者と村の協働により、買い物支援と巡回型の行政サービスや生活支援の拡充を図り、誰もが暮らしやすい環境づくりを進める。
⑤	地域内シェアリングプロジェクト	住民が所有する農機具やトラック、自家用車等を有償で貸し借りできる仕組みを構築し、頻繁に使用しない車両等の保有負担を軽減する。

事業の概要（2）

	事業名	事業概要
⑥	移住～定着しやすい環境づくり	地域の暮らしに必要な情報を誰もがわかりやすいようマニュアル化するとともに、役場と地域の連携により移住～定着しやすい環境を構築する。
⑦	旧西豊小学校の交流拠点化	旧西豊小学校を地域の賑わいと暮らしの拠点として整備する。
⑧	神野山 周回ルート整備	ツツジ、羊、星空等の地域資源を活用した交流拡大を進めるため、神野山に周回ルートを整備し、環境負荷の少ない電動カート等を導入する。
⑨	神野山周辺における宿泊施設の整備	ツツジ、羊、星空等の地域資源を活用した交流拡大を進めるとともに、来訪者の滞在時間延長による経済効果拡大のため、宿泊施設を整備する。
⑩	コミュニティバスの拡大	既存のバス路線や先行して開設した神野山路線の見直しや、隣接する自治体、バス事業者との連携により、住民にとっても来訪者にとっても利用しやすい交通環境を整備する。

事業のスケジュール (1)

事業名	事業内容	ソフト	ハード	具体的な取組	～R. 04	事業年度					R. 10～	事業主体
						R. 05	R. 06	R. 07	R. 08	R. 09		
① ツツジの咲きほこる神野山づくり	地区のシンボル「神野山」を県を代表するツツジの名所として整備するとともに散策者の安全と安心を確保する。また、地域住民と都市住民の交流を通じた植栽の実施やツツジのオーナー制度等の導入により、交流の拡大と住民主導の景観維持・保全の仕組みづくりを行う。	●	●	植栽計画に基づく整備	計画							村
				地域住民と都市住民の交流を通じた植栽	計画	実施				村・(神)組合		
				ツツジのオーナー制やパークボランティア制度の導入	計画					村・(神)協会・(神)組合		
						実施(継続)				(神)協会・(神)組合・地域団体		
<p>・「植栽計画に基づく整備」は、奈良県植栽計画の「山添・神野山エリア」整備方針に基づいて実施。 ・上記において、遊歩道や休憩所等の整備については、予算状況を鑑みながら検討～実施をめざす。 ・「地域住民と都市住民の交流を通じた植栽」は、R4年10月に植栽イベントをプレ開催。R5年度以降、継続して実施する。 ・上記の財源については、ふるさと納税やクラウドファンディングの活用も検討する。 ・景観維持や保全については、オーナー制やパークボランティア制度等を導入し、都市住民との交流を通じた持続可能な仕組みの構築をめざす。</p>												
② 羊まるごと活用プロジェクト	「羊のいいとこ、全部伝えたい」をコンセプトとして「めえめえ牧場の活性化」「羊の草刈り隊派遣事業」「羊肉活用事業」の3つの事業を実施し、交流の拡大や羊のブランディング、新たな産業・雇用の創出を図る。	●	●	めえめえ牧場の活性化	計画							村・(神)協会
				草刈り隊派遣事業	計画						(神)協会	
				大和羊(羊肉)の生産・流通	計画					村・(神)協会		
						試行				実施(継続)	(神)協会・民間事業者	
<p>・めえめえ牧場の活性化と草刈り隊派遣事業は、計画に基づき、(神)協会を主体として推進。 ・羊肉活用事業は、役場と(神)協会及び民間事業者との協働を視野に、調査～計画策定を進める。また、R5年度以降、肉用羊の繁殖・飼養を試行し、安定した生産～流通の目的が立ち次第、生産に必要な施設の本格整備等について検討を進める。</p>												
③ 山添の「うめえもん」づくり	特色ある農・畜産物を活用した食の特産品づくりを支援する取組を実施し、6次産業化を視野に入れた産業振興を図ることで、地域のブランディングと収益力の拡大を図る。	●	●	特産品の生産・加工支援								村・(神)協会・地域団体・民間事業者
				特産品の販路拡大支援							実施	
<p>・大和茶やまめくら大豆等を使用した特産品について、安定した生産・加工・販路拡大の支援を行う。</p>												
④ 暮らしサポート事業	民間事業者との協働により買い物支援と巡回型の行政サービスや生活支援の拡充を図り、地域での暮らしの利便性の確保と保健福祉を推進し、誰もが暮らしやすい環境づくりを進める。	●	●	移動販売車の導入	試行							村・地区・地域団体・民間事業者
											稼働	
				保健福祉事業の運用	体制構築～試行						村・地区・地域団体・民間事業者	
											運用(継続)	村・地区・地域団体・民間事業者
<p>・サポート事業は、かねてから全村で実施している公共交通空白地有償運送事業(移動支援)に加え、地域の見守りを兼ねた移動販売事業(買い物支援)や保健福祉事業(配食・宅配取次)を実施する。実施にあたっては、移動販売車を保有する企業やその他の民間事業者と、社会福祉協議会・商工会との連携により運用。当地区から村内全域への事業拡大をめざす。(企業や民間事業者に打診済み)</p>												

※表中の「事業主体」

- ・村＝山添村関係課及び社会福祉協議会等
- ・(神)組合＝神野山組合(神野山地権者)
- ・(神)協会＝神野山観光協会(「フォレストパーク神野山」指定管理団体)
- ・NPO＝本表内では「NPO法人 空き家コンシェルジュ」を指す

事業のスケジュール (2)

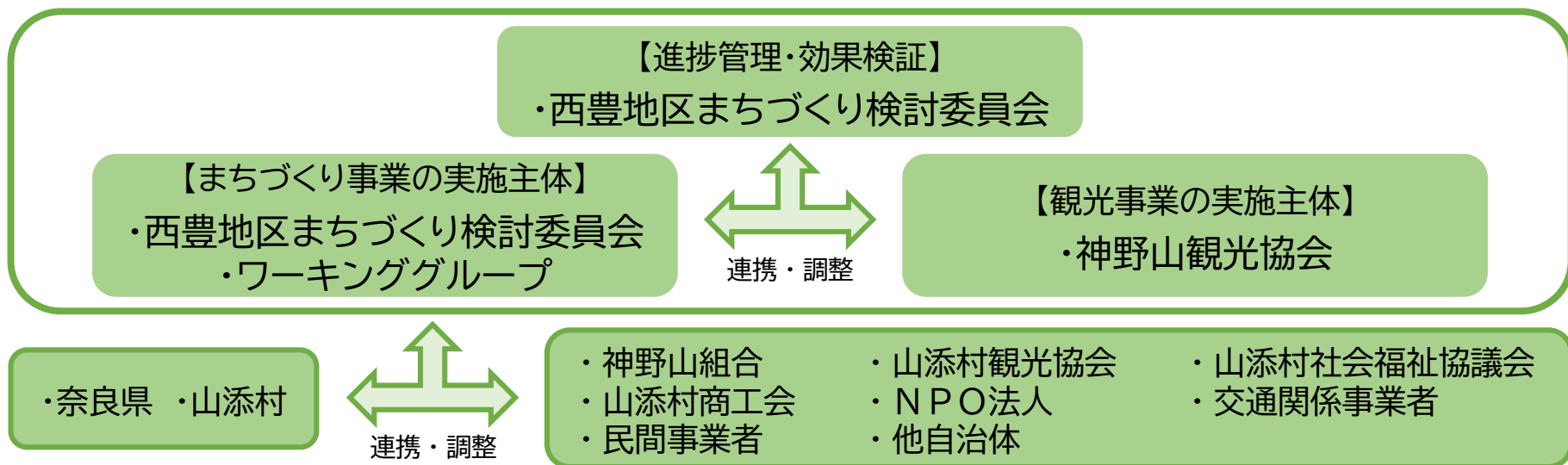
事業名	事業内容	ソフト	ハード	具体的な取組	～R. 04	事業年度					R. 10～	事業主体			
						R. 05	R. 06	R. 07	R. 08	R. 09					
⑤ 地域内シェアリングプロジェクト	住民が所有する農機具やトラック、自家用車等を有償で貸し借りできる仕組みを構築し、頻繁に使用しない車両等の保有負担を軽減する。 ・旧西豊小学校の交流拠点化についての協議の中で需要や実施体制について検討。	●		実施体制の構築～運用	需要調査・実施体制の検討					運用	村・民間事業者・地域団体				
												村・民間事業者・地域団体			
⑥ 移住～定着しやすい環境づくり	移住者受け入れの体制を整備するとともに地域の暮らしに必要な情報を誰もがわかりやすいようにマニュアル化することで、住民も移住者も安心できる移住の推進と定着率の向上を図る。 ・いずれも各大字やNPO法人「空き家コンシェルジュ」との連携により推進。お試し移住の制度や空き家等の施設整備についても検討の上、必要に応じて本事業内で実施。	●	●	移住者受け入れの体制づくり	課題検討	体制構築						村・地区・地域団体・NPO			
												稼働(継続)・施設整備	村・地区・地域団体・NPO		
		●		地域の暮らし方マニュアルの作成	調査	作成							村・地区・地域団体・NPO		
													活用(継続)	村・地区・地域団体・NPO	
⑦ 旧西豊小学校の交流拠点化	旧西豊小学校を地域の賑わいと暮らしの拠点として整備し、廃校を拠点とした地域コミュニティの活性化と交流の拡大を推進する。 ・整備方針や活用方法については、R5～R6年度に有識者を招き、地域団体(住民グループ)や民間事業者とワークショップ形式で検討し、計画を作成。 ・「施設の整備(改修)」については、懸案となっている施設への進入路等の整備を併せて整備方針の検討を進める。	●	●	施設の整備(改修)		方針の検討～計画						村・地域団体・民間事業者			
												設計～実施(工事)	村・民間事業者		
		●		施設の活用		運営体制づくり							村・地域団体・民間事業者		
													仮活用	活用(継続)	地域団体・民間事業者
⑧ 神野山周回ルート整備	飲食エリア・交流エリア・山頂エリアを徒歩に限らず周回するルートを整備し、環境負荷の少ない電動カートを導入することで、神野山散策のバリアフリー化とツツジ・羊・星空等の地域資源を活用した交流拡大を推進する。 ・移動手段については、ルート整備に多額のコストがかからず、安全で環境負荷の少ないオフロード用電動カートの導入を検討。	●	●	ルートの整備	調査～計画							村・(神)協会・(神)組合			
													実施	村・(神)組合	
		●	●	電動カート等の導入～運用		調査～計画								村・(神)協会	
														試行	運用(継続)
⑨ 神野山周辺における宿泊施設の整備	神野山周辺に宿泊施設を整備し、ツツジ・羊・星空等の地域資源を活用した交流拡大を進めるとともに、来訪者の滞在時間延長による経済効果を拡大する。 ・R6年度までに整備する場所や施設の機能等を調査・検討し、R7年度以降に設計や工事等のハード整備を予定。整備完了箇所から順次施設の運営を開始。	●	●	施設の整備	場所や機能、整備手法の調査・検討							村・民間事業者・(神)組合			
												設計	施設整備	運営	村・民間事業者
⑩ コミュニティバスの拡大	既存のバス路線や先行して開設した神野山路線の見直しを行う。また隣接する自治体やバス事業者との連携を模索し、住民にとっても来訪者にとっても利用しやすい交通環境を整備することで利用の拡大を図る。 ・先行して開設したバスルートの見直しと、隣接自治体やバス事業者と連携したソフト事業により、住民にとっても来訪者にとっても利用しやすい交通環境を整備する。	●		運行ルートの整備	計画							村・地区			
													実施	村	
		●		利用の拡大	計画									村・バス事業者	
														実施(継続)	村・バス事業者

※表中の「事業主体」

- ・村=山添村関係課及び社会福祉協議会等
- ・(神)組合=神野山組合(神野山地権者)
- ・(神)協会=神野山観光協会(「フォレストパーク神野山」指定管理団体)
- ・NPO=本表内では「NPO法人 空き家コンシェルジュ」を指す

計画の推進体制と財源や人材の確保

本計画を推進するため、西豊地区まちづくり検討委員会及びワーキンググループ・神野山観光協会・行政・その他関係機関の連携により、計画の進捗管理を行います。また、必要に応じて適時計画を見直します。



※上記の各団体について { 西豊地区まちづくり検討委員会：地区代表者、地区議員
神野山観光協会：「フォレストパーク神野山」指定管理者
ワーキンググループ：住民有志／外部人材
神野山組合：神野山地権者

【財源確保の手法】

- 奈良県まちづくり連携協定事業に基づく各補助金
- 内閣府「デジタル田園都市国家構想交付金」
- 奈良県「植栽による景観向上推進事業費補助金」
- クラウドファンディングの活用
- 観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト」への参画 など

【人材確保の手法】

- 地域おこし協力隊制度等の活用
- サポーター組織の立ち上げ など



西豊地区
まちづくり
基本計画

4.基本計画図及び相関図

基本計画図

【1】豊かな資源を活用する

- (1) ツツジを活かす
- (2) ヒツジを活かす
- (3) 資源を活用した交流や産業の活性化







【2】豊かな暮らしを守り育む

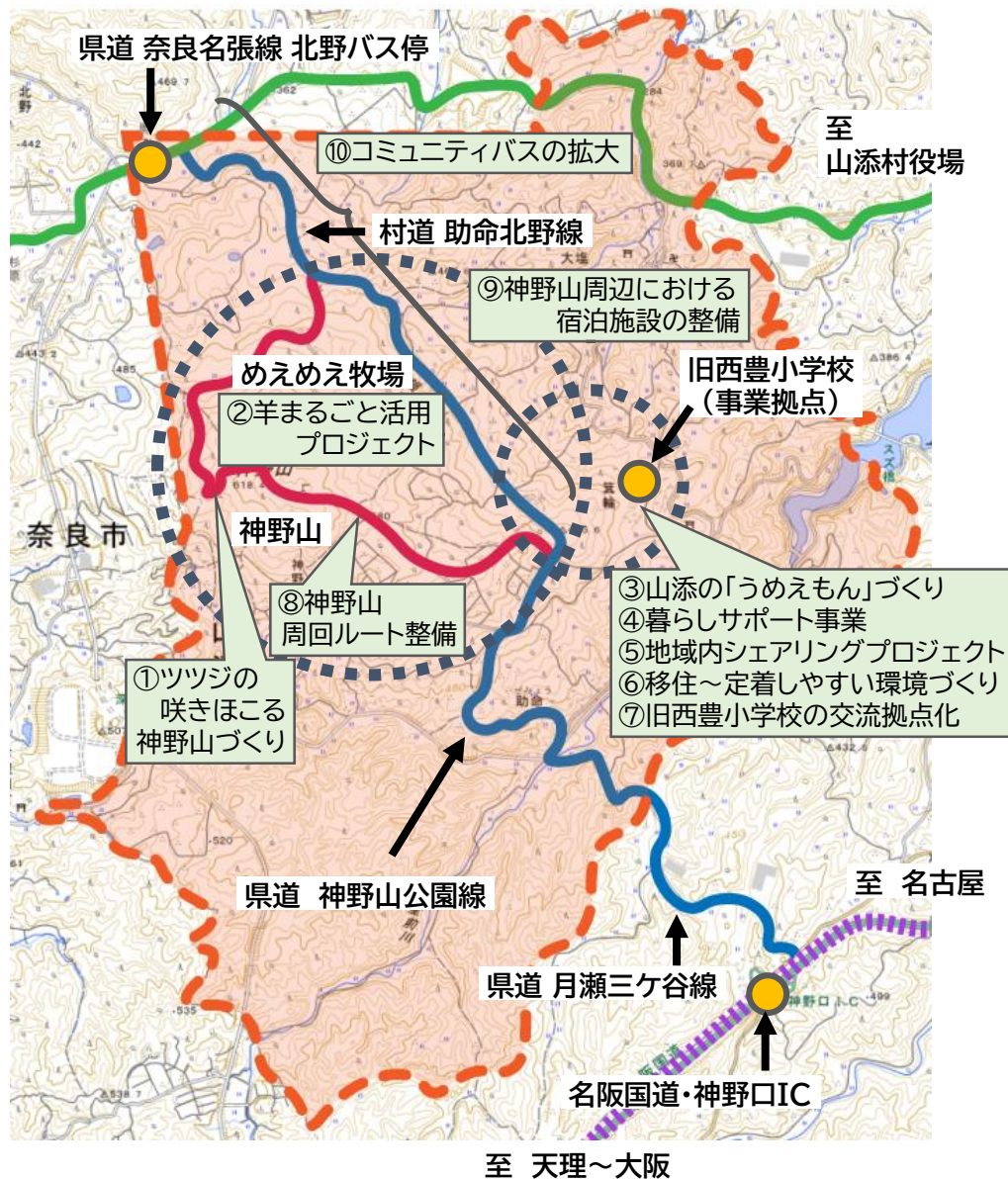
- (1) 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
- (2) U/J/Iターンの受け入れ環境づくり
- (3) 時代に合った地域コミュニティの構築

【3】資源を活かし暮らしを育む環境整備

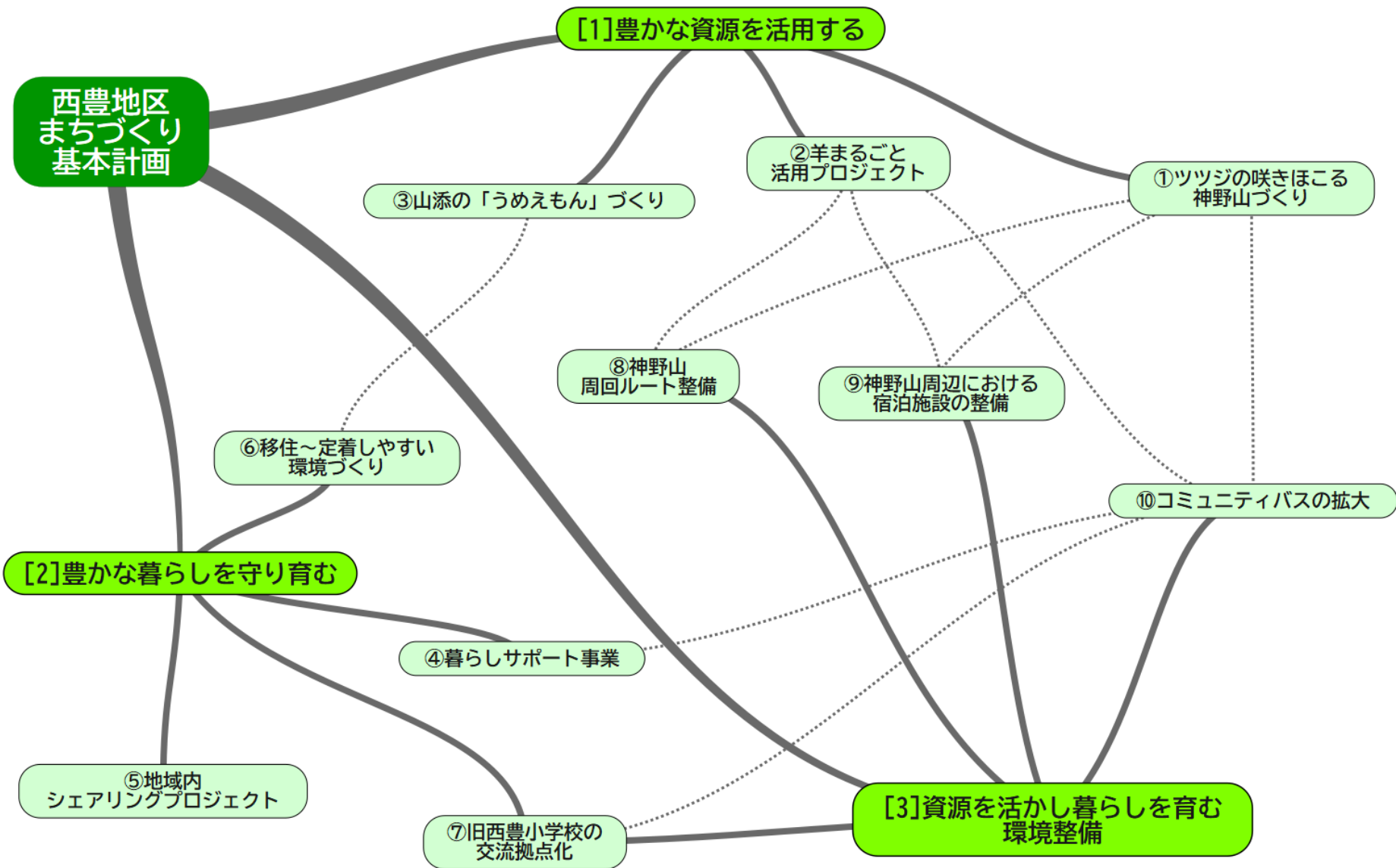
- (1) 旧西豊小学校の整備
- (2) フォレストパーク神野山の整備
- (3) 交流と暮らしを支えるインフラ整備

【右図凡例】

-  基本計画対象区域
-  県道奈良名張線
-  地区へのアクセス道路
-  神野山周回ルート
-  資源活用を中心エリア
(フォレストパーク神野山)
-  暮らしを育む拠点エリア



相関図



A graphic consisting of two green circles of different sizes. The larger circle is on the right and contains the title text. The smaller circle is positioned to the left and slightly below the larger one.

西豊地区
まちづくり
基本計画

5.成果指標

成果指標

●基本方針[1]と[3]についての成果指標

	KPI	単位	令和3年度 現状値	令和9年度 目標値	備考
1	フォレストパーク神野山への観光入込客数 [注1]	人/年	40,819	60,000	
2	神野山関連施設の観光売上額	千円/年度	7,896	11,800	

[注1] 「フォレストパーク神野山への観光入込客数」は、現状値を令和3年、目標値を令和9年の数値とする

●基本方針[2]と[3]についての成果指標

	KPI	単位	令和3年度 現状値	令和9年度 目標値	備考
3	旧西豊小学校の施設利用者数	人/年度	149	1,000	
4	暮らしサポート事業の実施回数	回/年度	0	150	移動販売・宅配・夕食配送等の各事業の合計実施回数
5	西豊地区への累計移住組数 [注2]	組	0	5	令和5年度～9年度の累計

[注2] 山添村空き家バンク制度を活用した移住実績に基づく数値とする